

災害備蓄「白い小箱」
児童養護施設に贈る

三重大学付属中学校(津



市)と海星中学・高校(四日市市)の昨年度の卒業生たちが残っていた災害用物資「白い小箱」計50箱が20日、鈴鹿市上箕田の児童養護施設「鈴鹿里山学院」に寄贈された。

白い小箱には非常食や飲料水、簡易トイレなどが入っており、災害時に備えて「日本非常食推進機構」(四日市市)が普及に努め

寄贈された「白い小箱」を手にする榎本院長(左)と古谷代表理事

ている。今回は高校の卒業生が同機構に白い小箱を寄贈、同機構は地域貢献の一環として同施設に贈った。

同機構の古谷賢治代表理事(47)は「貴重な災害用備蓄品なので、防災訓練などで活用してもらえれば」、同施設の榎本英典院長(64)は「施設には約30人の子供がいるので、有効に使わせてもらいたい」と話していた。